

第○学年○組 体育科学習指導案

日 時 令和○年○月○日 () ○校時
場 所 ○○○○
指導者 ○○ ○○

児童が、単元の学びの内容を見通せて、興味を持てるよ
うなネーミングにしてもよい。(動きや運動課題など)
マット運動「クルッ・グウルウー・サッと！」(動きについて)
ボール運動「打って、走って、ホームへ戻ろう」(運動課題について)
※何ができるようになるかを見通せるようにする。

1 単元名 ○ ○ ○ ○ ○ 「 内 容 」 (領 域)

2 単元について

(1) 一般的な特性

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する視点から機能的特性(その運動が持つ楽しさ、喜び)を中心に記載する。機能的特性を存分に味わうために必要となる構造的特性(その運動の技術的な仕組み)の系統性を踏まえ高めたい力とその効果的特性(その運動の身体的発達に対する効果)をまとめて簡潔に記載する。学習指導要領、学校体育要覧を参考に記載する。

(2) 児童から見た特性

学級児童の運動への期待や欲求(挑戦・達成・克服・模倣変身など)と運動との関係から特性を捉え直しておく。

○運動をどのように受け止め、楽しさや喜びを得ているか。(2・3個程度)

●運動のどのような点に不安や困難さを感じているか。阻害要因(1・2個程度)

(3) 児童の実態 男子○名 女子○名 計○○名 (調査日)

<実態調査の結果>(児童の興味・関心、学びの状況、技能の状況等)を分析する。

・具体的な内容が分かる実態調査を行う。

例) マット運動が嫌い。理由:体が硬くて思うように動けないから。

・質問項目に気を付ける。 ※調査例:特性に触れる楽しさ・特性に触れる学び方 等

例) 足でボールを扱いゴールをねらうゲームで、やってみたいことは何ですか。

→サッカー(種目)を学ぶのではなく、ゲームの目的の下で発生する課題解決学習をする。

・既習の内容について調査する。 ※調査例:技能習得・ルール理解 等

例) 入学以前の経験、前学年までの学び、技能の習熟度 等

→低学年については、これまでの学びの内容を問うのは難しいので「どのようなことをしたか。」という質問が考えられる。

注意) 未履修の内容に関して調査しない。また、調査方法に配慮し、見せ物にしない。

<考察>

・実態調査質問項目の結果を踏まえ、児童がこの学習を通して最終的に目指す姿である「何ができるようになるか」という点に迫るために、伸ばす点、手立てを検討する必要がある点など、学習を進めていく上での内容を明確に整理する。

(4) 指導観

- ・児童が単元を通して、どのような力を身に付け、単元終了時にどのような姿になっていくか。教師が持つ「ゴールイメージ」を、3つの育成を目指す資質・能力について明確にする。
 ※教師だけの一方向的な思いにならないよう、実態調査を参考にする。
- ・ゴールイメージ達成には、どのような手立てや工夫が必要で、それはなぜかを具体的に記載する。
 ※技能習得だけではなく、運動課題の解決に向けて思考し判断する場面や自分の考えを表現する場面をどのように設定し、児童がめあてを必要に応じ修正しながら、粘り強く学んでいける学びに向かう姿勢や力の育成についても明確にしていく。
 ※運動と児童の実態関係から、学習のねらいや学習集団の組織の仕方、学習の場の設定方法等を明確にしていく。
 ※学習の道筋である「ねらい1」から「ねらい2」へ移行するタイミングは、児童が運動との関係でどのような状態になったときか明確にする。
- ・配慮を要する子への手立てや合理的配慮が必要な場合には記載する。

3 単元目標

- (1) (知識及び技能)
- (2) (思考力, 判断力, 表現力等)
- (3) (学びに向かう力, 人間性等)

学習指導要領の内容に応じて記載する。

語尾「～できるようにする。」

4 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規準	<p>学習指導要領「2 内容」は、育成を目指す資質・能力が3つの観点で示されており、文末は「～すること」となっている。評価規準については、身に付いた状態を表すため、文末を「～している」へ変更して記載する。</p>		
単元の評価規準	<p>上記の「内容のまとめりごとの評価規準」と、指導計画における児童の活動を考慮し、学習活動レベルに対応したより具体的な「単元の評価規準」を作成する。学習指導要領の例示を参考にする。 (これは、これまでの「学習活動に即した評価規準」と同じ性質をもつ。)</p>		
	① (知識) ～している。 ② (技能) ～できる。 ③ ※知識と技能で分けて設定	①～している。 ② ③ ※思考・判断と表現で分けて設定	①～しようとしている。 ② ③ ④ ⑤ (安全) ～している。 ※愛好的態度, 公正・協力, 責任・参画, 共生, 健康・安全の項目に分けて記載

本時は、丸数

5 指導と評価の計画

時	1	2	3	④	5	6	7	8
単元のねらい	<p>単元目標達成に向け、学習の方向性を示した「単元のねらい」を簡潔に記載する。</p>							
本時のねらい	<p>ねらい1 ○○・・・ ねらい2 △△・・・</p>							
学習の流れ	0	<p>単元終了をイメージし「単元のねらい」達成に向けた教師が持つ「学習の道筋」を記載す</p>						
	10							
	20	<p>・学習の道筋に準じて学習活動のまとまりを整理し、単元全体の学習が系統的に組織されているように示す。 ・線で区切りをつける際、点線は時間的に前後する可能性がある場合、実線は概ね時間が決まっている場合に使用する。</p>						
	30							
	40							
	45							
指導と評価の機会	知	①			▶(観察)			
	技	<p>・指導内容と評価内容が一致するようにする。 <u>何をいつ指導①し、→指導継続、いつどのように評価(観察)するか示す。</u></p>						
	思	<p>・技能習得や態度育成は、指導から習得までに一定期間必要となるため、十分な期間を設け評価できるようにする。</p>						
	態	<p>・思考・判断・表現の評価は、知識を活用し課題解決を目指すことから知識・技能を評価した後に評価できるようにする。 ・1単位時間の評価項目は1, 2個程度とする。</p>						

太字下線部、令和3年度変更箇所

6 本時の指導 (□/△)

(1) 目標

- ◎ ～。(知識及び技能)
- ～。(思考, 判断, 表現力等)
- ～。(学びに向かう力, 人間性等)

「5 指導と評価の計画」の「指導と評価の機会」のうち評価に該当する観点を◎, その他を○で示す。

語尾「～できるようにする。」

(2) 展開

過程	時間	学習内容と活動	指導・支援 (○), 評価 (☆)	用具・資料
はじめ	〇〇分			
なか	〇〇分		<ul style="list-style-type: none"> ・評価規準, 評価計画に基づき, 評価の場面を具体的に示す。 ※評価項目は1単位時間あたり1, 2個程度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に必要な教具, 教材, 資料を記載
まとめ	〇〇分		<ul style="list-style-type: none"> ・努力を要する児童の姿をイメージして, 具体的な支援や手立てを記載する。 <p>例)・・・出来るように, △ (支援, 手立て) する。</p>	

(3) 学習の場

学習の場を図で示す。